

私立 中村学園大学短期大学部

組織的取組による短期集中型キャリア形成支援プログラム

取組期間	2009(平成21)年度～2010(平成22)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒814-0198 福岡市城南区別府5丁目7番1号
設置者	学校法人 中村学園

取組内容とその成果

プログラムの目的及び内容

厳しい環境下にある短期大学においては、学生満足度が高く、しかも社会のニーズに応じた教育を、いかに効率よく2年間で行うかが重要な課題である。本取組は、教育課程以外にも課外講座やその他のプログラムを組織的に提供することにより、学生が自らのキャリアについて意識を高め、短期集中的に能力開発を図ることで、本学科が教育目標に掲げる人材をより確実に効率的に育成することが目的である。

主な内容は、建学の精神に基づく徹底した「マナー教育」の実施と、能力開発のための「キャリアサポート体制の構築」で、その結果として、確かな職業意識のもとに、マナー、公的資格を身につけた学生を多数輩出することで、就職活動に成果を出すべく学生支援を行うものである。

到達目標

1. 建学の精神に基づく徹底した「マナー教育」を行い、社会人としての素養を身につけさせ、就職活動の結果などを通じて地域社会から高い評価を得る。
2. 授業及びそれと連動した課外講座などを通じて、学生にビジネス社会に有用な公的資格に挑戦させ、過去実績を超える資格の取得を目指す。
3. 就職率においてこれまで本学科が実現してきた高率を維持しその向上を目指す。

プログラムの実施内容

次のようなプログラムを計画し、それぞれ実施した。

1. 教育課程(年次進行的にキャリア形成を実現するカリキュラム構成)
2. マナー教育(学園マナーのスタンダードを制定し徹

底した指導)

3. キャリアサポート体制(能力開発のためのトータルシステムの構築)

(1) キャリア情報管理システム(学生のキャリア情報のデータベース:n-cats)

(2) キャリアデザインシート(学生自身によるキャリアデザインの目標設定と省察)

(3) キャリアサポート講座(公的資格の取得支援講座の開講と検定対策)

(4) 個別指導(定期面談の実施とn-catsを利用した記録と経過観察)

(5) 就職基礎能力養成プログラム(就職意識の高揚と就職試験対策:SKYプログラム)

(6) キャリアサポート室(キャリアカウンセラーの配置によるカウンセリング、キャリア開発セミナーの実施、公的資格取得のためのキャリアサポート講座の開講・検定指導を含みキャリアサポート体制のキーステーション)

プログラムの成果

1. 当該プログラムの周知方法等

学内では、どのような方法で周知徹底したのか。当該プログラムの実施に当たって、次の方法で周知徹底した。

【学生】

必修科目である大学基礎演習(1年前学期)、キャリア形成演習Ⅰ(1年後学期)、キャリア形成演習Ⅱ(2年前学期)、キャリア形成演習Ⅲ(2年後学期)の授業を活用して周知した。また、N-campus(携帯電話情報配信サービス)による連絡網も活用した。

【学科教職員】

毎月実施する学科会議に併設するキャリアサポート委員会において状況を報告し、学科の全教職員が当該プログラムに対する認識を共有するよう努めた。

【学内】

当該プログラムを大学のホームページで公開する
他、公開フォーラムの開催、全学教育ワーク

ショップ、短期大学部FD研修会での報告などを行
行った。

2. 当該プログラムの成果

(1) 自己評価はどのような観点で行ったか。

当該プログラムの概要は資料1に示すとおりであり、また、達成目標に「高い就職率の維持」をあげているため、領域を「教育課程」「マナー教育」「キャリアサポート体制」「就職率」「推進体制」「情報公開」の6つに分けて自己評価を行った。結果は次表のとおりである(計画に対する達成度A:120%、B:100%、C:70%)。

領域	評価№	評価の観点	資料№	自己評価
教育課程	1	大学生生活の基礎作りを行う「大学基礎演習」、職業観・就業力を育成する「キャリア形成演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、学生のキャリア教育に有効であったか。	2・3	B
	2	インターンシップを通して就業体験や意識付け、キャリア教育がなされたか。	4	B
マナー教育	3	「キャリア開発学科学園マナー」に則った指導により、学生のマナーは向上したか。	5	A
	4	リクルートスーツで発給するビジネスデイの実施により、学生はリクルートスーツ着用の基準が明確になり、品のいい着こなし術を習得したか。	—	B
キャリアサポート体制	5	キャリア情報管理システムは、学生のキャリア教育及び学生支援に有効であったか。また、学生も積極的に利用したか。	6-9	B
	6	キャリアデザインシートは、学生のキャリア教育及び学生支援に有効であったか。また、学生も積極的に利用したか。	10	C
	7	キャリアサポート講座は、キャリアサポート体制のキーステーションとしての役割を果たしたか。	11-12	B
	8	個別指導は、十分になされていたか。	—	B
	9	就職基礎能力養成プログラムは、学生の就職意欲の高揚と就職試験対策に有効であったか。	—	C
	10	キャリアサポート室は、キャリアサポート体制のキーステーションとしての役割を果たしたか。	13-16	B
	11	上記の他に、積極的なキャリアサポートに取り組んだか。	17	B
就職率	12	当該プログラムの実施により、高い就職率を維持できたか。	18	B
推進体制	13	キャリアサポート委員会は十分に機能したか。	19	B
情報公開	14	積極的に当該プログラムの情報を公開したか。	20	A

(2) 到達目標に達したか。

総体的には、ほぼ満足の行く結果であり、それぞれ一定の段階まで到達できたと考えている。個別적으로는、仕組みの構築は完成しているが、その運用においてなお課題を残している部分がある。前項の自己評価はその両方の状況を勘案したものとなっている。

(3) 具体的な成果は何か。

【教育課程】(評価1・2)

本学科の教育課程は資料2のとおりである。大学生生活の基礎作りを行う「大学基礎演習」、就職活動に密接に関わる職業観・就業観を育成する「キャリア形成演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、学生からの授業評価も高く(資料3)、マナー教育とも相まって高い就職率に繋がっている。

また、インターンシップは、2009(平成21)年度は54名、2010(平成22)年度は50名が受講し、各年度とも学生の受入れ企業から多くの関係者を迎えて報告会を実施した(資料4)。

【マナー教育】(評価3・4)

本学では建学の精神の一節に「『形は心の現れである』を信条とし、その実践に努める」があり、マナー教育を人間教育の中心と考えている。徹底した「マナー教育」は、在学生(資料5)及び卒業生はもとより、卒業後の就職先等の地域社会から高い評価を得ることができた。

また、2010(平成22)年には、キャリア開発学科の取組をもとに短期大学部にマナー委員会が設置され、学部全体のマナー教育について検討が行われた。そして、2011(平成23)年4月からは短期大学部学園マナーを「Manner Book Nakamura Style」にまとめ、3学科全学生を対象としたマナー教育に発展している。

【キャリアサポート体制】

①キャリア情報管理システム(評価5)

本補助事業開始当初、学生の情報の共有など課題の多かったシステム(資料6)も、Webシステム化を図り、さらに、学生情報データベースとしての利用のほかに、就職情報やeラーニングの機能も備えたマルチシステム(資料7・8)となった。本システムの運用により、特に個別指導の充実を図ることが可能となり、学科教職員からも学生支援に有効であるというアンケート結果が得られている(資料9)。

②キャリアデザインシート(評価6)

2年生に実施したアンケートでは、本シートが「役に立った」あるいは「少し役に立った」と答えた学生が約8割にのぼった。詳細は学科教員により論文にまとめ本学の研究紀要に掲載した(資料10)。

③キャリアサポート講座(評価7)

秘書技能検定2級、日商簿記検定3級、日商PC検定(文書作成)3級の取得に取り組むことにより、学生は問題解決能力としての知識・技能の習得はもちろん、何かをやりとげることで自らに自信を持つとともに、積極性や忍耐力を身に付けるなどの人間的成長を図ることができた。併せて、これらの資格取得により、就職活動に備えることができた。資格取得状況を資料11、講座受講後の学生の満足度を資料12に示した。

④個別指導(評価8)

学期ごとに最低1回は指導主任による個別面談を実施するほか、随時に学生の要望に応じて就職試験対策指導などを行った。また、キャリアサポート室のカウンセラーによる個別指導も行った。

⑤就職基礎能力養成プログラム(評価9)

本プログラムは、2010(平成22)年度より開始したこともあって、学生への周知が徹底せず、2010(平成22)年度の修了者は6名であった。

⑥キャリアサポート室(評価10)

キャリアサポート室は、キャリアサポート体制を総合的に推進するキーステーションである。主な業務は、キャリアサポート講座の開講、キャリア情報管理システムの維持、キャリアプランの作成・指導などである。日常的には助手一人を配置し、キャリアサポート講座の運営に関する折衝・諸準備、学生の資格取得にかかわる検定試験の受検手続き(資料13)、キャリアカウンセラーとともに学生の様々な相談への対応(資料14・15)、キャリア開発セミナーの開催(資料16)などを行った。

⑦その他(評価11)

社会の第一線で活躍する方々を招き、キャリアアップ講演会を開催した。学生に、将来を展望し、現在の学生生活を充実させるための意識付けとともに、2年生の後学期には、希望と勇気を与えることも目的とした。2009(平成21)年度及び2010(平成22)年度を通して1年次生対象に3回、2年次生対象に3回、全6回開催した(資料17)。

また、キャリアサポート講座の対象となる3検定の不合格者に対してフォローアップ講座を開催するほか、日商簿記検定2級、日商PC検定(データ活用)3級、実用英語技能検定2級・3級などの受検対策講座を学科独自で開講した。

【就職率】(評価12)

当該プログラムのより具体的な成果としては、最終的に学生の就職状況に示されている。本プログラムの初年度である2009(平成21)年度の就職決定率が92.7%、最終年度である2010(平成22)年度就職決定率が95.6%を示しており、近年の厳しい経済情勢の中では良好な実績を上げていると言える(資料18)。取組の成果が反映する部分は多様であるが、一連の取組が円滑に機能した結果であると考えている。

【情報公開】(評価13・14)

当該プログラムは、学科のキャリアサポート委員会(資料19)によって、計画・立案・実施・評価してきた。そのため、外部評価の代替として積極的な情報公開に努めた(資料20)。GP意見交換会や大学教育改革プログラム合同フォーラムにおいて取組の紹介をする機会を得ることができたことも、本プログラムの大きな成果と考えている。

今後の計画

1. 当該プログラムの成果をどのように活用していくか。

キャリア情報管理システムの維持・管理、キャリアサポート室へのキャリアカウンセラーの配置など、一部に予算の制約もあるが、可能な限り継続して実施していく。特に、キャリア情報管理システムについて、キャリア教育と学生支援により積極的な活用を図っていく。また、当該プログラムの成果に基づき、2011(平成23)年度からは、「キャリア開発学科 キャリア教育の再構築に関する研究」というテーマで学科のプロジェクト研究を立ち上げ、今後のキャリア教育について検討を重ねているところである。

2. 今後の計画

【教育課程】

一連の取組を通じて、一応の目的は達したものの、その後の環境の変化を踏まえて、平成25年度に向けてカリキュラムの改定も視野に入れた教育課程の検討を行っている。また、2011(平成23)年度からは、学内に向けて学科の専任教員が担当する授業は随時公開する取組を開始し、2012(平成24)年度は、併設高校の教員や学生の保護者にも拡大する予定である。これらにより、より質の高い教育を目指す。

【マナー教育】

2011(平成23)年度より、キャリア開発学科のみにとどめず、食物栄養学科・幼児保育学科を含めた短期大学部全体の取組となり、本学科がマナー教育の牽引役として、積極的に取り組んで行く。

【キャリアサポート体制】

「キャリア情報管理システム」は、システムとして一定の完成をみているので、これの積極的な活用を中心に展開して行く。具体的には、学生の自主的な入力の促進であり、特定の授業時間等を利用して趣旨徹底と活用を促して行く。学生支援のための教職員の利用についても、引き続き学生一人ひとりにきめ細かい支援を実現して行く。利用環境の整備とシステムの拡充については、ドリルシステムを学外から利用できることさらに効果的であるが、克服すべき課題もあるので、その対応を検討して行く。

その他の取組についても、「大学教育・学生支援推進事業」の支援を受けて種々の施策を集中的に投

入ることにより、本学科が目指す教育目標に大きく近づけることができた。この成果を継続し改善に取り組むことで、さらに充実したキャリア支援を目指して行く。

また昨年度より、キャリア教育研究において大学生向けの心理尺度として使用されている「キャリア意識」(安達智子 2004「大学生のキャリア選択」『日本労働研究雑誌』)と「進路選択の困難さに関する意識」(CDDQ-R: Career Decision-Making Difficulty Questionnaire-revised) (若松養亮 2005「教員養成部の進路未決定者が有する困難さの特質」『青年心理学研究』)についてアンケート調査を実施している。今後も定期的実施することにより、その成果を学科のキャリア教育に反映させて行く。

課員、学科教員に何時でも個別相談できる体制を取っている。

- ・1月段階で未内定の学生を集合させ、外部講師による「就職活動中の学生のためのセミナー」を行って、勇気づけるとともに、その時期からの就職活動の仕方について懇切に指導している。

2. 未内定のまま卒業した者への支援策

- ・卒業式後においても、就職活動を続ける学生に対しては、求人情報の提供、個別相談の対応など、引き続き在学時と同様に可能な限りの支援を行っている。

就職未内定者への支援策

1. 内定(内々定)のピークを過ぎても内定(内々定)を得られない者への支援策

- ・事務局の就職課が、大学へ送られてくる求人票に基づく情報、学生ハローワークの公開情報を集約して毎週1回は活動中の学生へN-campusで配信している。
- ・必修科目の授業で求人情報資料を配布して活動の督励をしている。
- ・希望する学生は、キャリアカウンセラー、就職

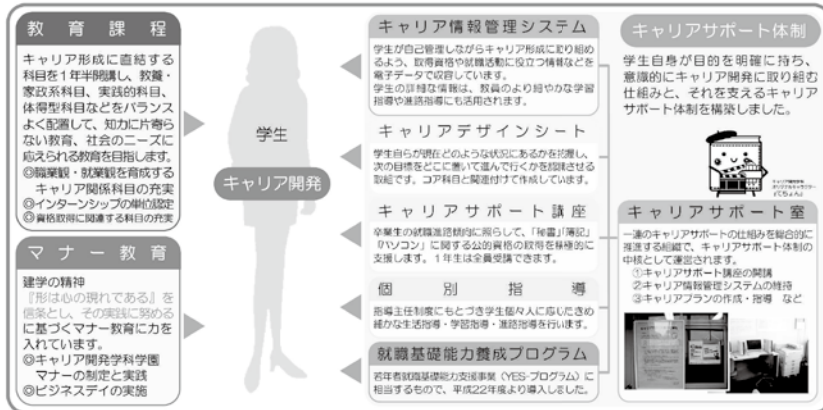
資 料

資料1 取組の概要 (平成22年度大学教育改革プログラム合同フォーラム展示ポスター)

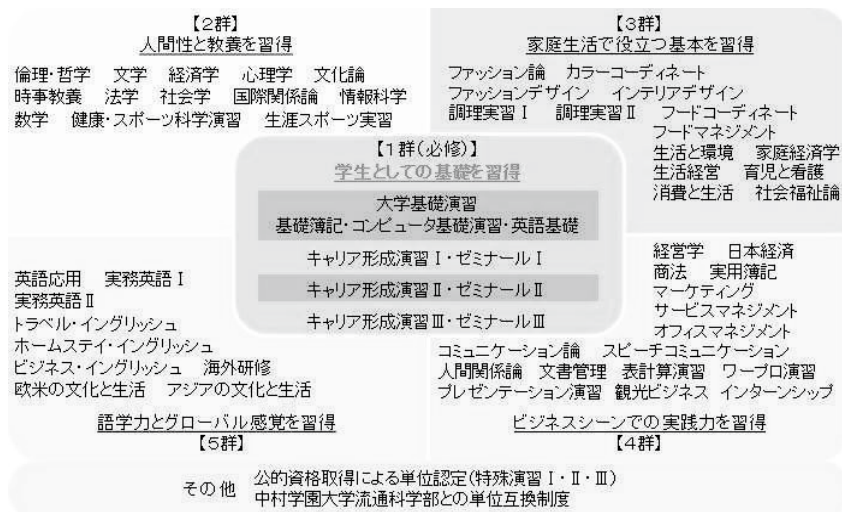
文部科学省 平成21年度「学生支援推進プログラム」採択 中村学園大学短期大学部キャリア開発学科

組織的取組による短期集中型キャリア形成支援プログラム

学生が自己意識に根ざして自らの目標を明確に持ち、キャリア形成に努める過程を支えるために、本プログラムに取組んでいます。



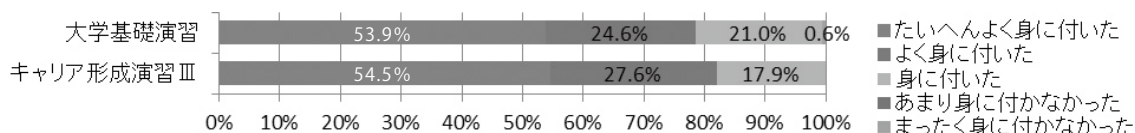
資料2 教育課程の概要



資料3 平成22年度学期末「授業についてのアンケート」集計結果

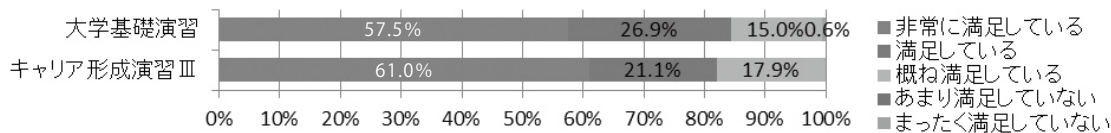
①授業が到達目標としている内容が身に付いたと

思いますか？



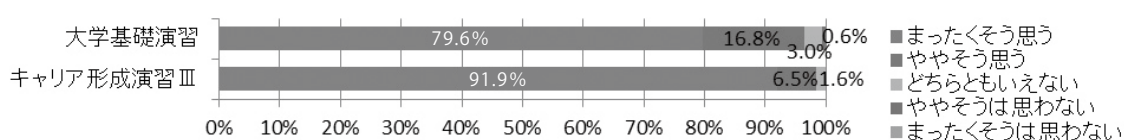
②総合的にみて、この授業を受講して満足したと

思っていますか？



③この授業を受けて、将来の自分のために役に立

ちそうだと思いますか？

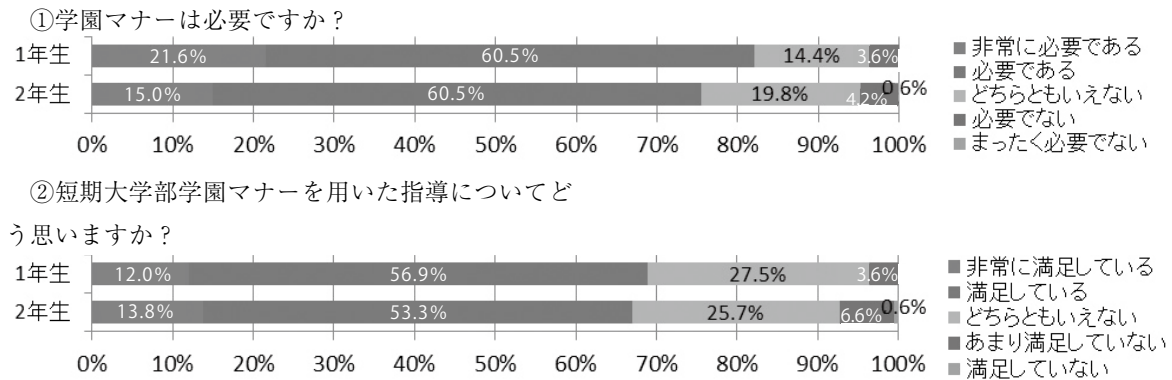


資料4 インターンシップの様子

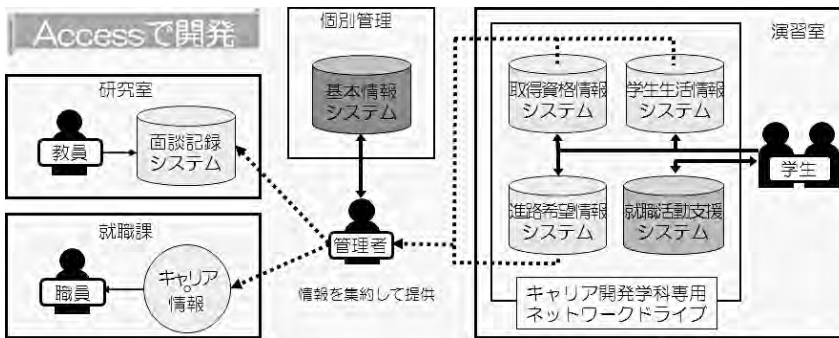


資料5 平成23年7月「学園マナーについて」のアンケート

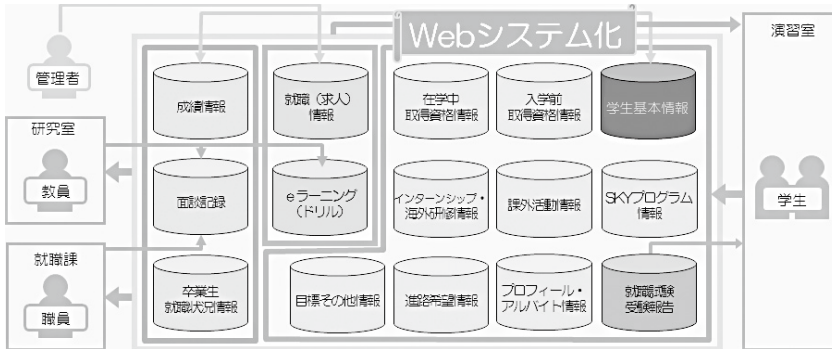
ト集計結果（抜粋、1,2年生ともにn=167）



資料6 補助事業前のキャリア情報管理システム



資料7 補助事業終了後のキャリア情報管理システム



資料8 「キャリア情報管理システム」(n-cats)のシステム構成

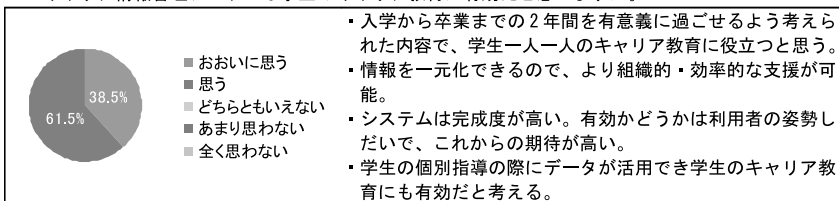
項目	入力			閲覧			
	学生	教職員	管理者	学生		教職員	管理者
				本人	一般		
学生基本情報	△	△	◎	◎	×	◎	◎
入学前取得資格情報	◎	△	△	◎	×	◎	◎
在学中取得資格情報	◎	△	◎	◎	×	◎	◎
SKYプログラム情報、課外活動情報、インターンシップ・海外研修情報、プロフィール・アルバイト情報	◎	△	△	◎	×	◎	◎
進路希望情報、目標その他情報	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
就職試験受験報告	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
成績情報	×	×	◎	×	×	◎	◎
面談記録	×	◎	△	×	×	◎	◎
卒業生就職状況情報	×	◎	◎	×	×	◎	◎
就職(求人)情報	×	×	◎	◎	—	◎	◎
eラーニング(ドリル)	×	◎	◎	◎	—	◎	◎

入力：◎主たる入力担当者、△入力可能、×入力不可 閲覧：◎閲覧可能、×閲覧不可

資料9 平成23年3月「キャリア情報管理システム」教職員対象アンケート集計結果

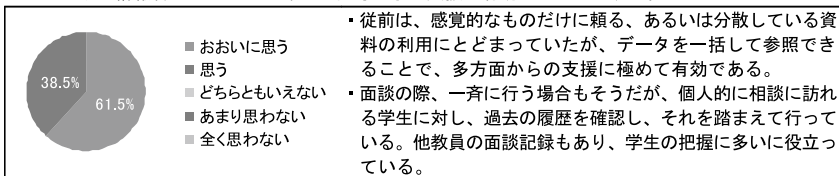
(抜粋、n=13)

a. キャリア情報管理システムは学生のキャリア教育に有効だと思いますか。



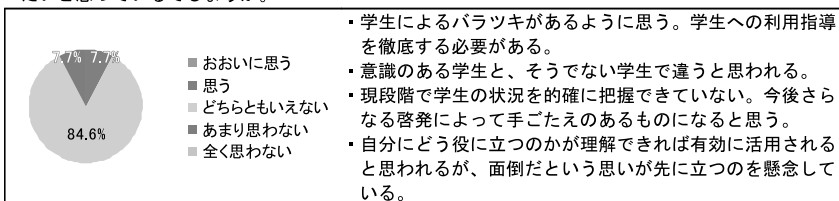
- ・入学から卒業までの2年間を有意義に過ごせるよう考えられた内容で、学生一人一人のキャリア教育に役立つと思う。
- ・情報を一元化できるので、より組織的・効率的な支援が可能。
- ・システムは完成度が高い。有効かどうかは利用者の姿勢しだいで、これからの期待が高い。
- ・学生の個別指導の際にデータが活用でき学生のキャリア教育にも有効だと考える。

b. キャリア情報管理システムはあなた自身の学生支援に有効だと思いますか。



- ・従前は、感覚的なものだけに頼る、あるいは分散している資料の利用にとどまっていたが、データを一括して参照できることで、多方面からの支援に極めて有効である。
- ・面談の際、一斉に行う場合もそうだが、個人的に相談に訪れる学生に対し、過去の履歴を確認し、それを踏まえて行っている。他教員の面談記録もあり、学生の把握に多いに役立っている。

c. キャリア情報管理システムを学生はどのように受けとめていると考えますか。よく理解して利用したいと思っているのでしょうか。



- ・学生によるバラツキがあるように思う。学生への利用指導を徹底する必要がある。
- ・意識のある学生と、そうでない学生で違うと思われる。
- ・現段階で学生の状況を的確に把握できていない。今後さらなる啓発によって手ごたえのあるものになると思う。
- ・自分にどう役に立つのかが理解できれば有効に活用されると思われるが、面倒だという思いが先に立つのを懸念している。

資料10 キャリアデザインシートに関する論文

- ・『キャリアデザインシート（改良版）による学習効果』酒見康廣、小久保美代子、中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要第42号、71-77、2010
- ・『入学前教育用教材としてのキャリアデザインシートの開発』酒見康廣、小久保美代子、中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要第43号、31-38、2011

受講者数	受検者数	合格者数	初回合格率
172名	160名	59名	36.9%

- ・検定日：平成22年11月21日（日）
- ・対象：平成22年度入学生180名
- ・講座回数：12回（39時間）
- ・結果：

受講者数	受検者数	合格者数	初回合格率
167名	158名	54名	34.2%

資料11 キャリアサポート講座実施状況

【秘書技能検定2級】

- ・検定日：平成22年6月20日（日）
- ・対象：平成22年度入学生180名
- ・講座回数：9回（39時間30分）
- ・結果：
- ※ 平成21年度入学生への当講座は、補助事業対象期間以外で実施したため記載しない。

受講者数	受検者数	合格者数	初回合格率
171名	168名	45名	26.8%

【日商簿記検定3級】

- ・検定日：平成21年11月15日（日）
- ・対象：平成21年度入学生188名
- ・講座回数：12回（39時間）
- ・結果：

【日商PC検定（文書作成）3級】

- ・検定日：平成22年2月6日（土）
- ・対象：平成21年度入学生188名
- ・講座回数：8回（21時間）
- ・結果：

受講者数	受検者数	合格者数	初回合格率
185名	155名	133名	85.8%

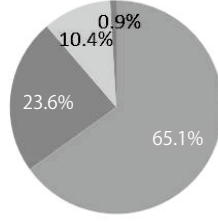
- ・検定日：平成23年2月5日（土）
- ・対象：平成22年度入学生180名
- ・講座回数：10回（20時間）
- ・結果：

受講者数	受検者数	合格者数	初回合格率
174名	157名	132名	84.1%

【キャリアサポート講座対象資格最終取得状況（平成23年3月31日現在）】

資格名	入学年度	学生数	取得者数	取得率
秘書技能検定2級	H21	188名	99名	52.7%
	H22	180名	85名	47.2%
日商簿記検定3級	H21	188名	74名	39.4%
	H22	180名	60名	33.3%
日商PC検定 (文書作成)3級	H21	188名	161名	85.6%
	H22	180名	156名	86.7%

取得数	H21	H22
3	47名	31名
2	68名	77名
1	57名	54名
0	16名	18名
合計	188名	180名

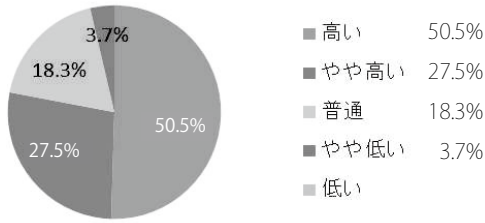


平成22年度入学生 (n=108)

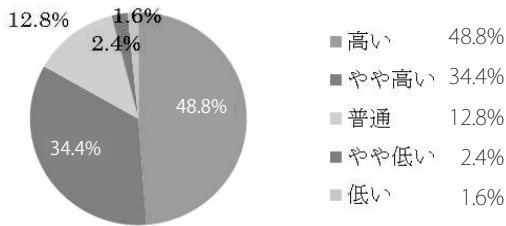
資料12 キャリアサポート講座を受けた学生の満足度

ア. 秘書技能検定2級

平成21年度入学生 (n=109)

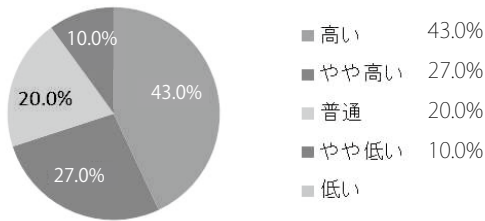


平成22年度入学生 (n=125)

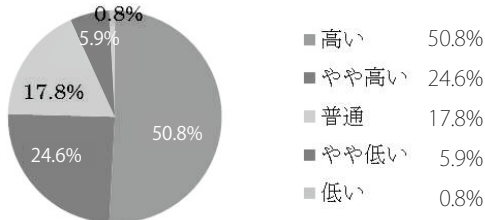


イ. 日商簿記検定3級

平成21年度入学生 (n=100)

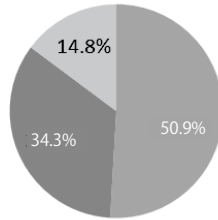


平成22年度入学生 (n=118)



ウ. 日商PC検定(文書作成)3級

平成21年度入学生 (n=106)



資料13 検定試験対応事務の1年の流れ

月	キャリアサポート講座で対応する3検定試験	キャリアサポート講座で対応しない検定試験
4月	【1】キャリアサポート講座(秘書2級)開始	
5月		日商PC検定(データ活用)3級試験
6月		①秘書検定試験 ②日商簿記検定試験 ③英検(一次)試験
7月		①TOEIC Bridge ②日商PC検定(文書作成)3級試験
8月		
9月	【2】キャリアサポート講座(日商簿記3級)開始	
10月		英検(一次)試験
11月		①秘書検定試験 ②日商簿記検定試験
12月	【3】キャリアサポート講座(日商PC(文書作成)3級)開始	
1月		①TOEIC IP ②英検(一次)試験
2月		①日商PC検定(文書作成)3級試験 ②日商簿記検定試験
3月		①日商PC検定(文書作成)3級試験 ②TOEIC IP

資料14 キャリアカウンセラーによる相談実績

	平成21年度(H21.9月~H22.3月)		平成22年度(H22.4月~H23.3月)	
	平成20年度入学生	平成21年度入学生	平成21年度入学生	平成22年度入学生
利用者数(名)	63	43	69	16
延べ回数(回)	124	合計	112	36
			197	
		合計	275	

資料15 一斉カウンセリング(2年生183名、1年生172名)後のアンケート集計結果

<p>【1年生(n=138)、平成23年1月実施】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大変良かった</td> <td>56.5%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>19.1%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>もう受けたくない</td> <td>10.1%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	大変良かった	56.5%	良かった	33.3%	普通	19.1%	あまり良くなかった	0.0%	もう受けたくない	10.1%	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動について、不安なことや疑問に思っていることなどを聞いて具体的に答えてくれたので良かった。話しやすい雰囲気でも聞きたいことが聞けたので、また何かあったら相談に行きたい。 今回、キャリアカウンセリングを受けて、自分では気づいていなかった長所や短所を発見することができた。また、自分がしたい仕事について良いアドバイスをいただけて、良かった。考え方に自信が持てるようになった。言っていただけのように、価値観を大事にしながらいろいろ模索していきたい。
満足度	割合												
大変良かった	56.5%												
良かった	33.3%												
普通	19.1%												
あまり良くなかった	0.0%												
もう受けたくない	10.1%												
<p>【2年生(n=166)、平成22年12月実施】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大変良かった</td> <td>37.3%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>47.0%</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>12.0%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>もう受けたくない</td> <td>2.4%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	大変良かった	37.3%	良かった	47.0%	普通	12.0%	あまり良くなかった	1.2%	もう受けたくない	2.4%	<ul style="list-style-type: none"> 将来自分がどのように頑張ればいいのか明確にできたし自分の中でスッキリした部分もありとてもいい機会だった。自分より人生経験が豊富な人からアドバイス貰う機会があまりないので友人とは違う価値観などが聞けてよかった。 就職活動をして沢山の企業を見て、内定を頂いた企業が一番合っているかと改めて思うことができた。キャリアカウンセリングを受けて自分のことをまた見直す機会ができ、よかった。職に就くことは不安より楽しみが大きいので、この気持ちを持ち続けて、仕事に専念したい。
満足度	割合												
大変良かった	37.3%												
良かった	47.0%												
普通	12.0%												
あまり良くなかった	1.2%												
もう受けたくない	2.4%												

資料16 キャリア開発セミナー

①平成21年度入学生（1年生）対象 第1回キャリア開発セミナー 全7回

日 程：平成22年2月4～2日 全7回179名受講

時 間：9：00～12：00

ねらい：自己分析・企業研究の重要性理解とその手法、文章作成の基本を習得する。

内 容：解説とワークを通して、自己分析を深め自己PR文を作成する。

PREP法の手法を用いて、自己PR文と志望動機の文章を作成する。

②平成21年度入学生（2年生）対象 第2回キャリア開発セミナー 全8回152名受講

日 時：平成22年5月14～29日

時 間：13：05～16：05

※一部は9：00～12：00と13：05～16：05

ねらい：印象に残る自己PR、思いを伝える志望動機の書き方を習得する。

内 容：再度、自己PRの書き方の工夫、仕事観を踏まえた志望動機の作成を試みる。4年大生に気後れしない姿勢を持ちながら就職活動に臨む志気を養う。

③平成22年度入学生（1年生）対象 第1回キャリア開発セミナー 全11回144名

日 程：平成23年2月7～25日、3月8日

時 間：10：00～16：00

ねらい：(1)求人数のピーク期の対応方法、就職活動の流れを確認する。

(2)自己理解を深め、アピールポイントを自分の言葉で表現できるようになる。

内 容：就職活動の全体の流れを解説し、求人者のピーク時を把握させる。また、グループワークを通して自分の行動特性を知り、自己PRの作成に取り組む。今、自分がしなければならないことを再確認させる。

④平成22年度入学生（1年生）対象第2回キャリア開発セミナー

日 程：平成23年3月1～3月31日

全25回140名

時 間：10：00～13：15 1回7名程度

ねらい：

①グループディスカッションの際の採用担当者の視点を知る。

②グループディスカッションを体験し、自分のクセや態度に気付く。

内 容：ガイダンス後、実際にグループディスカッションのロールプレイに取組、実践力を付ける。

資料17 キャリアアップ講演会

【第1回】

開催日：平成21年12月7日

対象：キャリア開発学科1年生

講師：株式会社石村萬盛堂

代表取締役社長 石村善悟氏

テーマ：学問・職業・人生

【第2回】

開催日：平成22年1月14日

対象：キャリア開発学科2年生

講師：株式会社ジョークュー

副社長 松村等彰氏

テーマ：これからの社会をどう生き抜くか～私の経験からと食育のすすめ～

【第3回】

開催日：平成22年6月16日

対象：キャリア開発学科1年生

講師：NECカシオモバイルコミュニケーション株式会社

NTTドコモ営業本部 福川桂子氏

日本電気株式会社

パートナービジネス営業本部 松岡 馨氏

テーマ：すてきな人生を送るために

【第4回】

開催日：平成22年7月2日

対象者：キャリア開発学科2年生

講師：フリーアナウンサー 林田スマ氏

テーマ：私の歩んできた道

【第5回】

開催日：平成22年12月6日

対象者：キャリア開発学科1年生

講師：スカイマーク株式会社

代表取締役会長 井手隆司氏

テーマ：学問・職業・人生



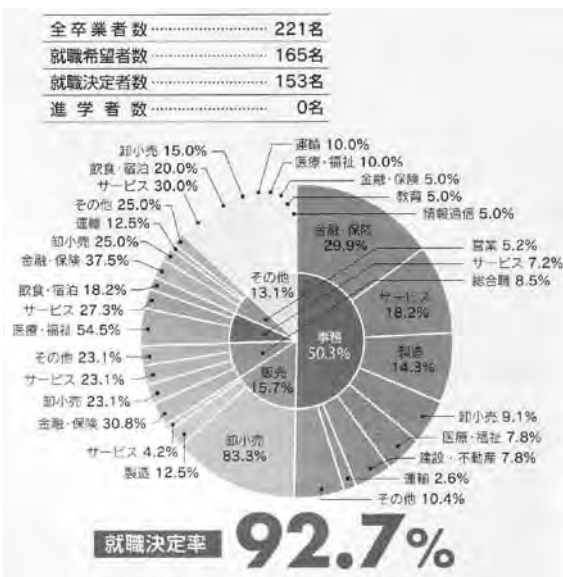
【第 6 回】

開催日：平成 22 年 12 月 22 日（水）
 対象者：キャリア開発学科 2 年生
 講師：教育評論家 熊丸みつ子氏
 テーマ：人生七転び八起き

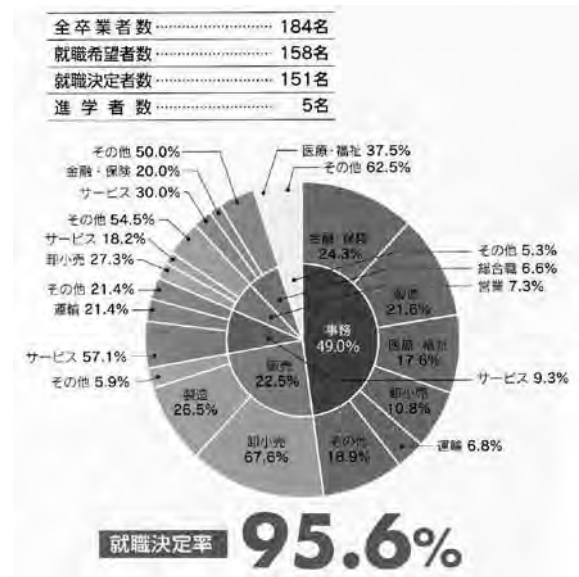


資料18 キャリア開発学科卒業生就職状況（数値は「学校基本調査」（5月1日現在））

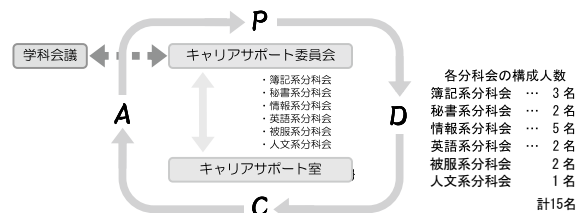
平成21年度卒業生



平成22年度卒業生



資料19 キャリアサポート委員会を中心としたプログラムの推進体制



資料20 情報公開

① 公開フォーラム

ア. 平成 21 年度

日 時：平成 22 年 3 月 20 日（土）13：00～16：00

会 場：本学・西 1 号館 10 階大講義室

プログラム：

開会の挨拶	学長 藤本 淳
記念講演 「キャリア開発学科の学生に学んでほしいこと」	キャスター・華世システム代表、 特別非常勤講師 山本 華世 氏
報告 「キャリア形成支援プログラムの取組概要」	キャリア開発学科 准教授 梶田 鈴子
卒業生によるミニシンポジウム 「社会人 1 年生がキャリア開発学科で得たもの」	第 1 期卒業生 4 名 コーディネーター キャリア開発学科 准教授 手嶋 康則
閉会の挨拶	短期大学部長 橋本 俊二郎

イ. 平成 22 年度

日 時：平成 23 年 1 月 15 日（土）13：00～16：00

会 場：本学・西 1 号館 10 階大講義室

プログラム：

開会の挨拶	学長 藤本 淳
講演 「先進的取組による活力ある短期大学教育と高大接続」	【ソニー学園 湘北短期大学】 理事・教務部長 佐藤 清彦 氏 情報メディア学科 教授 小椋 理子 氏
報告 「キャリア情報管理システム n-cats の展開」	キャリア開発学科 教授 梶田 鈴子
卒業生によるミニシンポジウム 「キャリア教育の実践と成果」	第 2 期卒業生とその上司 コーディネーター キャリア開発学科 准教授 手嶋 康則
閉会の挨拶	短期大学部長 清水 誠

②平成 22 年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」・「大学教育・学生支援推進事業」学生／就職支援推進プログラム 意見交換会（中

国・四国・九州地区)

主催：独立行政法人日本学生支援機構

日時：平成22年12月3日(金) 10:30～16:30

会場：ANA クラウンプラザ福岡

発表者：梶田 鈴子、清水 誠

③文部科学省 平成22年度大学教育改革プログラム合同フォーラム

期日：平成23年1月25日(火)

会場：秋葉原UDX 2階アキバスクエア

説明者：清水 誠、酒見 康廣、梶田 鈴子、岩田 京子、栗木 絃美

④学会発表等

「キャリア教育支援のための学生情報管理システムの構築と運用」

平成21年11月15日(日) 平成21年度情報教育研究集会

「組織的取組による短期集中型キャリア形成支援プログラム」

平成22年2月20日(土) Q-Links キックオフ・シンポジウム

「キャリア教育支援のための学生情報トータルシステムの構築」

平成22年9月3日(金) 教育改革IT戦略大会(私

立大学情報教育協会)

「中村学園大学短期大学部キャリア開発学科における就業力の教育と支援」

平成22年9月11日(土) 九州地区一般教育協議会

「短期大学生のための短期集中的キャリア教育の試み」

平成22年11月13日(土) 日本キャリア教育学会

「組織的取組による短期集中型キャリア形成支援プログラム…2年目の展開」

平成23年2月19日(土) Q-conference2010

⑤活動報告書

平成23年3月20日発行、88頁、中村学園大学短期大学部-GPポータルにも掲載

URL <http://gp-portal.jp/src/ippan/shoukaiPage.cfm?id=1654>

⑥他大学の来訪視察

・ソニー学園湘北短期大学(平成22年7月27日(火)、3名)

・福岡国際大学(平成22年11月5日(金)、4名)

・広島国際大学(平成23年1月28日(金)、2名)

・四国大学短期大学部(平成23年2月25日(金)、3名)

・高田短期大学(平成23年2月25日(金)、1名)

評 価 結 果

評 定 : S

評定理由(総論)

短期大学の2年間という限られた時間の中で、教育課程と課外活動などの組み合わせによって学生満足度を高め、社会のニーズに応じた教育を効率よく進めていくことを課題として明確に示した上で、具体的にさまざまな事業を展開しているところに優れた点がある。また、到達目標とプログラム実施内容、さらにプログラムの成果が分かりやすく提示されており、十分に評価できるプログラムになっていると思われる。

特に次の2点で優れている。①適切かつ正当な自己点検評価を徹底して行っている。②各系分科会数名の下位組織から構成された学内キャリアサポート

委員会(15名)の組織を中心に、支援プログラムが順調に実施されている。

また学生のマナー教育とキャリア形成支援という視点での考え方、目指すべき方向性、それを実現するためにしていくことの数値目標が明確にされており、具体的に実践が積み重ねられているところに、本プログラムの大きな特色がある。また、各講座の関連性あるいは内外の講師の有機的なつながりなども、大学全体が学生のキャリア形成にしっかりと向き合っていることが明確に見え、とても有効なプログラムであり、他大学の参考となる実践例として提示できるのではないかとと思われる。

自己点検評価の結果を活かし、学生のニーズに沿ったさらなる支援プログラムの充実と発展を期待したい。

実地視察報告

視察日：2012(平成24)年11月2日（金）



総評

当初の計画通りに実地視察が行われた。最初に、事前に提出された「自己点検報告書」の内容について、さらに詳細な資料に基づいて、大学担当者から直接口頭による説明がなされ、両視察者が若干の質問と意見を述べた。大学側の説明の内容は、ほぼ報告書のとおりであった。その後、「キャリアサポート室」と「就職支援オフィス（就職課）」の現場視察を行い、学生への就職支援の実際について実感し、確認することができた。さらに就職が内定している卒業予定の3名の学生と面談し、学生が直接体験した大学当局の就職支援プログラムについて聴取した結果、かなり「満足度が高い」ことが確認できた。

実地視察の結果から、特に本大学の特色として、①学生の資格取得に重点を置いた就職支援プログラムを導入し、②支援プログラムの成果を担当の教員が学会等で積極的に発表し、教育研究の視点からキャリア教育の専門性のあり方を意欲的に究明している、2点が確認された。

結論として「自己点検報告書」の内容通り、到達目標の「マナー教育」の徹底と「キャリアサポート体制」の構築による就職率の向上が達成された、と最終的に評価できる。

個別事項

本支援プログラムは、新設間もない短期大学部の「キャリア開発学科」に特定した取組であることに注目する必要がある。同学科の教育課題（講義・演習・実習）そのものが「キャリア開発」をテーマに

した就職支援プログラムである。それ故に、短期大学の2年間の履修年限で、徹底したキャリア支援教育が可能であったと理解する。ただし、同短期大学の他の学科においては、現時点においては同プログラムの実施は不可能ではないかと推察される。

今後の課題として、「キャリア開発学科」が核となり、他学科への同就職支援プログラムの拡大を図るとともに、大学全体の就職支援プログラムとしてさらに開発し推進することが期待される。